

植え終わった水田にさざ波、見上げれば青空

6月25日に全ての水田への稲の植え付けが終わりました。一番早いものは5月の終わりから始まりましたからほぼ一カ月、週末を中心に田植え作業を行いました。

その期間は麦の収穫とも重なり、から、麦の刈り取り作業を進めながら、圃場を水田にするように、役割分担が必要です。昨日まで麦があつた圃場ですから、入念な耕うん作業となります。大型のトラクターがうなりをあげて圃場をはい回っていました。

苗づくりが5月の連休から始まり、作業計画に従った綿密な毎日の作業を積み重ねていきましたその間には、水路の泥上げや、除草作業もあります。細心の注意が必要な水量管理も、非常



に重要です。早朝から夕暮れまで、見回りは欠かせません。

今回の植え付け面積はおよそ25ヘクタール、そこから収穫されるのは120トン前後の玄米となります。太陽と水そして土壌の力です。

今や農事組合法人八方原が組織された。農業機械の大型化と整理が進みました。農業は益々、ハイテク化していくでしょう。無人のトラクターも当たり前になるかも知れませんね。

八方原ふれあい盆踊り大会

【日時】 八月三日（土曜日）

午後七時より

【会場】 三角公園

参加・協力やご支援よろしくお願
いします。世話人 本田 昇

農業に興味を持つ若者が一人でも増えれば

毎年恒例の山口市立上郷小学校2年生の田植え見学が6月17日に行われました。

2年生は地域を知るといふ学習の中で、農作業の代表的な「田植え」を見学しました。

今回の講師は農事組合法人八方原の代表杉山均さんです。

最新型の田植え機が、いつもの作業を一度に行う事ができるという説明を聞いて、感心していました。

一緒に来た関係者の中には「私たちも初めて知りました。」という声もありました。農作業の傍で見ていると、当たり前前のが、意外にびつくりするような事実だったことがあるのですね。



今年、上郷小学校の児童の書いた写真を紹介できません。今、児童の個人情報をもつて、厳しい状況なのです。

市道清掃にたくさんさんの参加

市からの受託事業「市道除草清掃」を6月23日行いました。今回は50人の方の参加がありました。

自治会では予め、市道の状況を把握してそれぞれの班に、範囲を振り分けました。班別に参加者の人数や装備も考慮して、作業の増減を決めています。今回は道路を横断しているすいろうについても泥上げと清掃を行いました。



自治会長がたくさんの道具を用意してくれていたの、スムーズに

高山造庭園の作業場周辺には3か所の横断水路があります。どの水路もたくさんさんの土砂で半分以上が埋まっているような状況でした。

また市道傍の公有地は急な斜面なので作業は危険を伴います。ここでは草刈りの「達人」を自治会長が指名して、作業を行って頂きました。参加の皆様大変ご苦労様でした。

ペットのマナーアップで地域の魅力をアップ

6月15日、八方原自治会振興会議が開かれました。自治会、関係団体、事業所の代表の方々に参加して頂き、さまざまな立場からご意見を頂く会議です。

今回は自治会へ寄せられている問題が二つ取り上げられました。

ペットの○○○

これは今までも何度でも話し合われてきた内容ですが、道路の傍で花や野菜を



とになりました。

やはり継続してマナー向上の啓発を行うことが大事だろうという結論となりました。また区域外からの利用者もあるので、立て看板なども有効に活用しようということになりました。

育てておられる方々から、田んぼや畑の中に「○○○」を放り込まれるのは我慢できないという強い不満です。出席者の中から、「マナー神社」のようなミニ鳥居をおいてはどうかという意見が出ました。畑や田んぼを全部カバーするのはちょっと無理かもしれないですね。

農作業時の安全確保

農作業時の苦情として、軽トラックなどを両側駐車するのは止めてもらいたいというものがありません。

市道沿線の農作業は極力避けておられますが、通行する側からの意見は尊重すべきです。農業法人や関係する農業者には善処をお願いするところではあります。

その他として、大雨の際の対応についても意見が出ました。これまでの経験を生かして、最大限の努力をすることとしています。

令和元年 認定書類も一新とは



国と山口市の見解の相違についても懸命の説明

6月5日、多面的機能支払交付金制度についての新しい認定書類などについて説明会が行われました。

平成30年度末に、新年度の認定書類を出したのですが、国の書式が変わったこともあって、全て書き直して再提出になりました。

また長寿命化事業については1件が200万円を超える事業について、この事業では認めないということになりました。当会ではそれほどの規模のものはありませんから、大丈夫ですが、大規模なところは困りのようです。